

これからの県立高校が目指す姿・特長

特長 1

中学生が行きたくなる「特色化・魅力化」の推進

特長 2

リアルな学びによる「新たな社会創造力」の育成

特長 3

一人ひとりが伸びる「個別最適な学び」の推進

特長 4

生徒の「市民としての主体性・当事者意識」の育成

特長 5

地域と一体的に学ぶ「プラットフォーム」の構築

特長 6

新たな学び・生活・執務に最適の校舎空間の実現

特長 1

中学生が行きたくなる「特色化・魅力化」の推進

これまで

様々なタイプの学校を設置するも、タイプ内の特徴が見えにくい

中学生は、学びの中身よりも部活動や入学可能か等で学校選択

これから

①生徒育成方針 ②教育課程編成・実施方針 ③生徒募集方針

各校各課程ごとに3つの方針を策定、特色を明示、魅力化を推進

国や県のモデル校受託等、カラーを鮮明にし偏差値以外の選択肢に

特長 2

リアルな学びによる「新たな社会創造力」の育成

これまで

多くが教室で教科書を使った授業、生徒は実感が持ちにくい

多くの探究活動が、本やネットから得た情報をまとめ、発表

これから

高校生マイプロジェクト全国大会の長野県大会を実施

現実社会・自分の体験と学びとのリンクを通じて学ぶ意味を実感

社会課題解決型探究 (PBL)を推進、新たな社会を創造する力を育成

特長 3

一人ひとりが伸びる「個別最適な学び」の推進

これまで

授業は基本的に講義演習形式、生徒は同一内容を同一進度で学ぶ

個別対応は基本的に教員がマンパワーで実施

これから

「自立的学び」と「共同の学び」を組み合わせ、個々の力を伸長

1人1台端末を活用、自分に適したペースと内容で個々に学ぶ

特長 4

生徒の「市民としての主体性・当事者意識」の育成

これまで

18歳選挙権の導入にもかかわらず、政治への関心・投票率が低い

生徒は基本的に受け身、不満を漏らすのが、自ら変える意欲は乏しい

これから

生徒が学校運営・地域づくり等に参画、主体性・市民性を育成

生徒が自ら計画した学校外のプログラムを学校が単位認定

特長 5

地域と一体的に学ぶ「プラットフォーム」の構築

これまで

生徒の学習活動の多くが、「校内で」「教員と」に留まる

社会人講師、フィールドワーク等を取り入れるも、まだ限定的

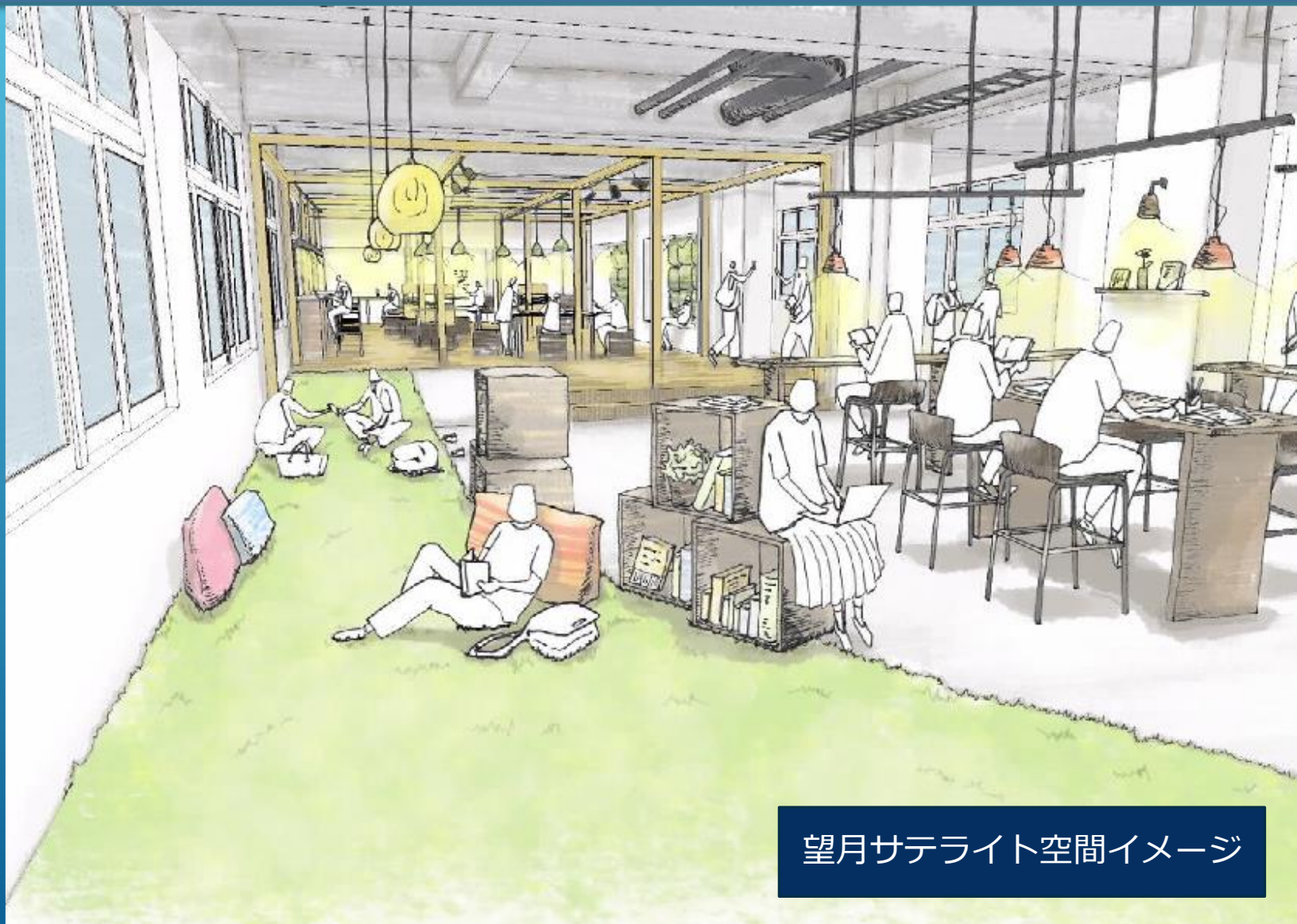
これから

校内に地域協働推進室を設置、生徒のアイデアを住民と具現化

地域資源を最大限活用、地元企業と分野最先端の協働的学びを推進

特長 6

新たな学び・生活・執務に最適の校舎空間の実現



望月サテライト空間イメージ

長野県教委『高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針』

方針3 新たな学びにふさわしい環境を整備

○学習環境・生活環境の整備



2018.8. 県立学校学習空間デザイン検討委員会

(建築・デザイン・官民共同・地方財政・防災・教育等の専門家による総合的検討)

2019.5. 中間報告会開催、中間報告書を教育長に提出・知事に報告⇒ 検討継続

○ICT環境の整備 など

学習空間レイアウトイメージ

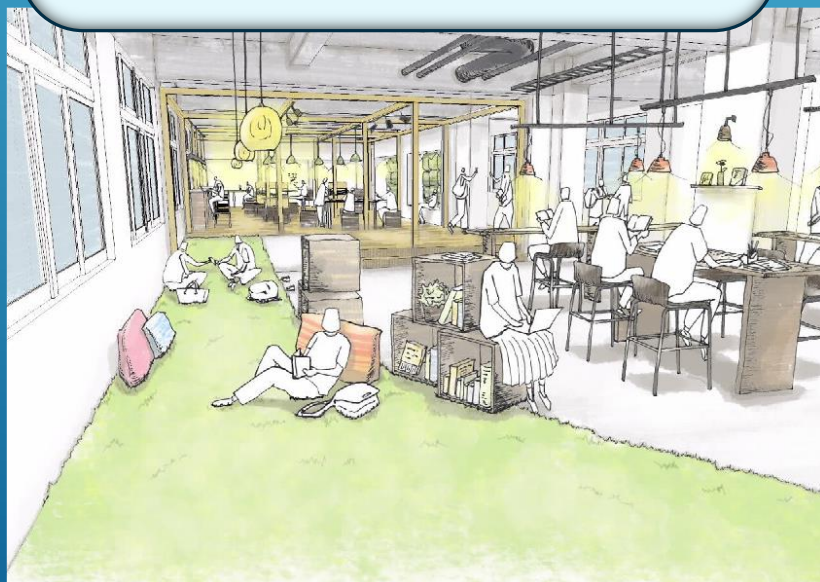
新たな学びにふさわしい学習環境

①

県・市町村を超え
地域の施設の
共用を検討・推進

地域とのコミュニティの
場としての

地域協働連携室
Fab Lab



地域連携ゾーン



図書館を併設、
探究活動のための

メディアセンター
(地域と共用)



学習空間レイアウトイメージ

新たな学びにふさわしい学習環境

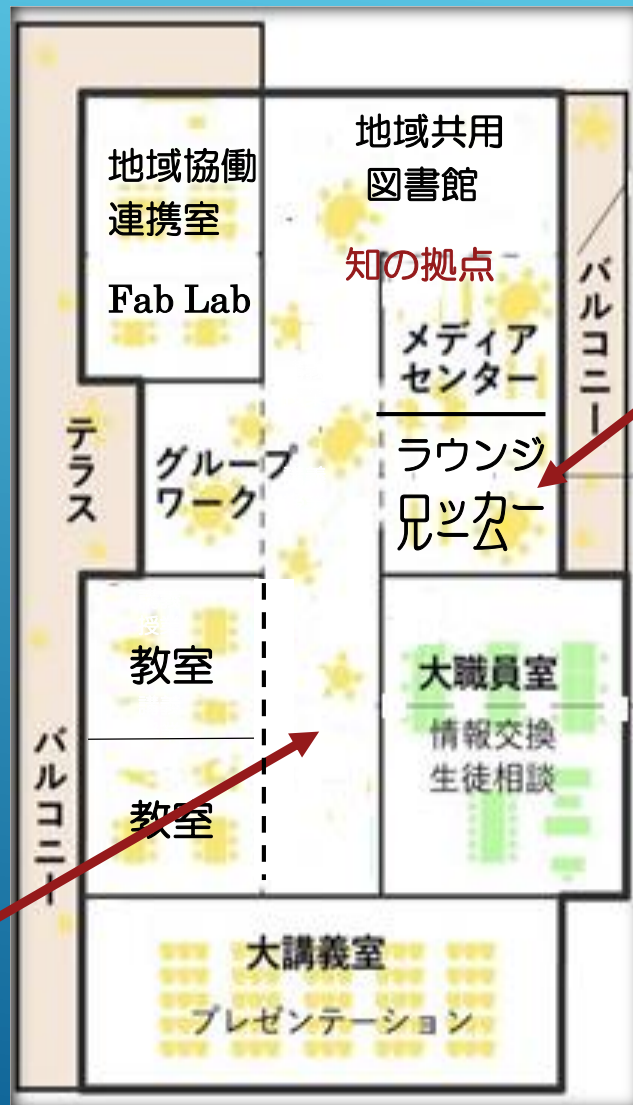
2

- ・ SDGs の実現に向けて、太陽光、自然光、県産材等を活用。
- ・ 校内全域にWi-Fi環境整備。



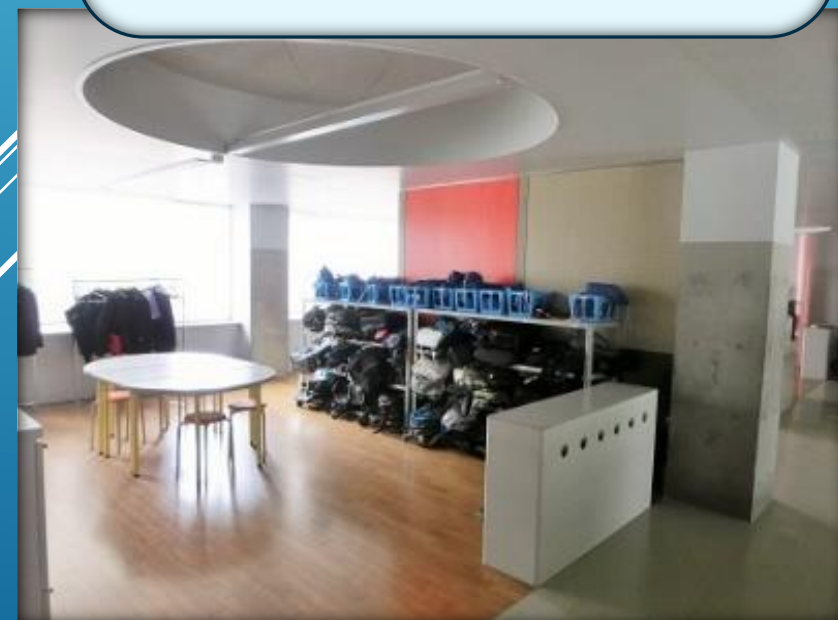
グループ討議等に対応する

廊下等を含めた
可変的学習空間



ミーティングが可能な
生活空間

ラウンジ
ロッカールーム



学習空間レイアウトイメージ

新たな学びにふさわしい学習環境

3



講演、プレゼンのための

大講義室
(地域にも開放)



生徒状況を瞬時に共有
生徒面談も可能な執務空間

大職員室

FIN...

ご清聴ありがとうございました。